

診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/keisei/keisei-top.htm>

- 1) 形成外科領域のあらゆる症例を経験できます。
- 2) マイクロサージャリー技術を用いた再建外科も得意。
- 3) 非権威主義的雰囲気。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
上田 和毅

昭和45年 聖光学院高等学校卒業
昭和52年 東京医科歯科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 再建外科
研究分野
1) 顔面神経損傷
2) マイクロサージャリー
趣味: 登山

学会活動

- 1) 日本形成外科学会評議員
- 2) 日本マイクロサージャリー学会監事
- 3) 日本頭蓋顎顔面外科学会評議員
- 4) 日本創傷外科学会評議員
- 5) 日本頭頸部癌学会評議員
- 6) 第34回日本マイクロサージャリー学会
会長(2007年)



副部長(准教授)
梶川 明義

昭和53年 山形東高等学校卒業
昭和59年 新潟大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 再建外科
研究分野
1) 乳房再建
2) 体表先天異常
3) マイクロサージャリー



助教 大河内裕美

平成6年 山梨県立甲府昭和高等学校卒業
平成12年 山梨医科大学卒業
臨床専門分野
1) 一般形成外科
研究分野
1) マイクロサージャリー
2) 創傷治癒
趣味: 旅行、ドライブ、スポーツ観戦



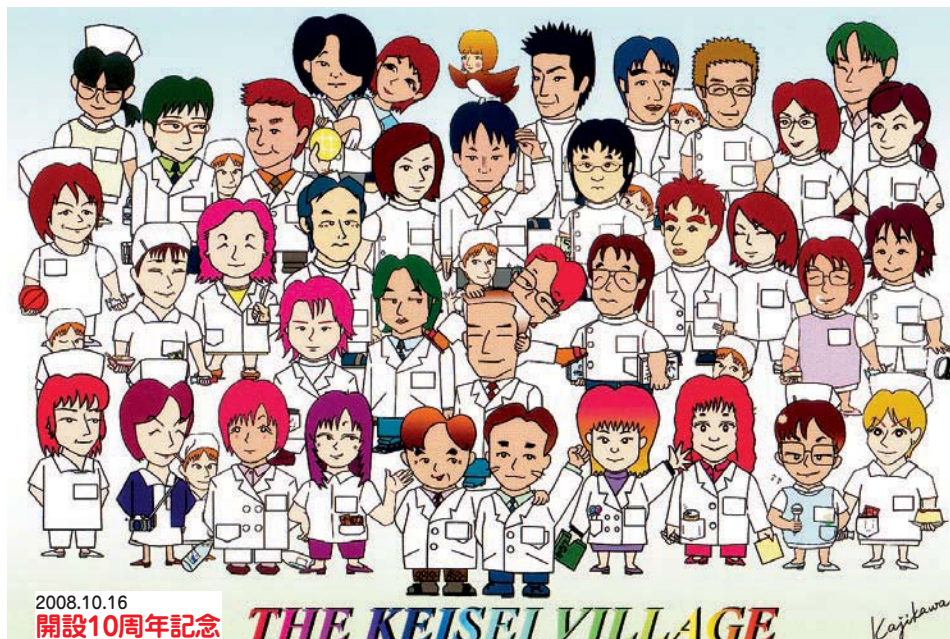
助教 舘下 亨

昭和59年 福島県立磐城高等学校卒業
平成5年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 一般形成外科
2) レーザー
研究分野
1) ケロイド・瘢痕
2) 顔面神経損傷
趣味: ドライブ、音楽鑑賞



助教 廣瀬 太郎

平成3年 大阪府立生野高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 一般形成外科
研究分野
1) マイクロサージャリー
2) 顔面神経損傷



2008.10.16
開設10周年記念

THE KEISEI VILLAGE

Kajikawa

後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	組織に対する愛護的操作 形成外科的皮膚縫合 Z形成術、W形成術 植皮術、皮膚採取(各種ダーマトームの使用) 良性腫瘍切除
2年次	局所皮弁移植 悪性腫瘍切除 熱傷治療 ティッシュエクспанション法 指(趾)形成術
3年次	遠隔皮弁移植、筋皮弁移植 神経縫合 片側唇顎口蓋裂手術 新鮮顔面骨折整復術 微小血管吻合(ラット)
4年次	穿通枝皮弁移植 小耳症手術 両側唇顎口蓋裂手術 陳旧性顔面骨折整復術 微小血管吻合(臨床)

大学院・留学について

大学院 あり(現在、大学院生2人)

留 学 希望に応じます

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

1. 形成外科研修6年(ただし、この期間には2年以内の臨床研修を含むことができる)
2. 70症例の経験症例の記録を提出。
3. 試験審査(筆記試験と口頭試問)に合格する。

後期研修協力病院

	関連病院名	所在地	指導医名	職 名
1	東京大学付属病院	東京都	光嶋 勲	教 授
2	群馬県立がんセンター	群馬県	鈴木 政美	部 長
3	静岡こども病院	静岡市	朴 修三	医 長
4	寿泉堂病院	郡山市	阪場 貴夫	医 長

指導医からのメッセージ

形成外科とは、皮膚を中心として頭蓋顎顔面骨・四肢骨、筋肉、脂肪、神経、血管などさまざまな組織の形態と機能を回復させることを目的とした外科の一領域です。形成外科の歴史は古く紀元前にまでさかのぼり、たとえば、鼻そぎに刑を受けた人に造鼻術を施したり、上口唇を失った人に皮弁移植を行った記録があります。これは、形成外科という技術が昔から不可欠であったことを示しています。しかし、近代的な形成外科が外科の一部という立場を離れて、独自に道を歩み始めたのはごく最近のことです。つまり、形成外科を専門としてそれだけを研究する人々が現れたのは、日本では昭和30年ごろからでしょうか。広島の前爆被災者治療に米国の形成外科医が訪れたことが記録に記されています。

形成外科では、癌や外傷に対する救命目的の手術を行うばかりでなく、いわゆるquality of lifeの向上をめざしています。生命維持をめざすだけでなく、失われた機能と形態を正常へ健常へと限りなく近づけることを目的としています。どんなに軽微な変形や機能異常であっても本人にとっては重大な精神的ストレスであることがしばしばであり、他者にはその苦しみを十分に理解することはできません。正常とのずれに最後までこだわって、病気の人を最後まで治すことにわれわれの独自性があります。

われわれの形成外科は、平成10年に診療科としてスタートし、平成17年度に講座となりました。初めての入局者は平成12年卒であり、まだ歴史の浅い科ではありますが、先天異常、外傷、腫瘍などさまざまな分野にわたって、精力的な臨床と研究に励んでいます。若い方々の更なる参画を待っています。



第34回日本マイクロサージャリー学会 打上風景